

米 みおつくし(滯標)
昔の難波江(大阪港)に立てられた水路標識。
1894(明治27)年4月、大阪市の市章となる。

ひどすぎる 暮らしメチャクチャ 住民が選べると言うけれど

「公選区長のもと、地域にあったきめ細かなサービスが実現する」と言いますが、ほんとうでしょうか。収入は減り、コストは大幅に増える——特別区になれば、住民のために使える予算は減ることがハッキリ。

区間の格差も大きく(最大5.2倍)、今のサービスさえ維持できない区も。

収入の差は調整する、としています。それぞれが独立した自治体です。そんなにうまくいくでしょうか。東京でも、差が広がると同時に、収入の多い区からはクレームも。

財産の差 最大49倍

みんなでつくったものなのに!

学校跡地などの財産はそれぞれの所在の区のものに。628億円の区もあれば19億円の区も。これまでも大阪市はこれらを売って赤字を埋めてきました。売るべき財産をもたない区はどうすればいいのでしょうか。

「二重行政をなくして 4000億円」はどこへ

節約効果は
わずか9億
4000万円

「府と市の二重行政をなくして4000億円生み出す」のうたい文句にもかかわらず、パッケージ案では、節約効果は706億円。しかも、そのほとんどは地下鉄・バスなどの民営化や、敬老パスの有料化などの経費削減。都構想とは関係ないものばかり。

施設などの統合による節約額は9億4000万円にすぎません。

やっばりムリです 大阪市廃止 バラバラ

都構想

なにがなんでも大阪市を廃止しバラバラの特別区にしようとする知事・市長が、具体的な制度設計案(パッケージ案)を作成。「府・市特別区設置協議会」で議論が始まり、「百害あつて一利なし」の姿がハッキリしてきました。

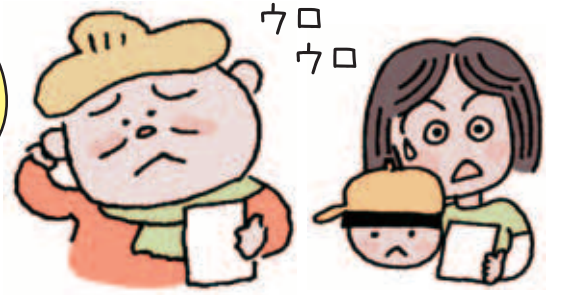
孫・子の代に オリンピック?

効果の少なさに呆れる声が広がり、橋下市長は「そんな小さな話ではない」とひょう変。「皆さんがお墓に入った後、子どもや孫がオリンピックをよべるように」(9月15日堺市長選挙の演説)と。とんでもない話です。

大阪都構想“百害あって一利なし”

こんな自治体、 全国どこにもありません

区役所は
どこ？



庁舎はつくらず、現在の区役所などを使い、不足分は民間ビルを賃借。小学校3ヶ分のビルを借りなければならない特別区も。そんな大きなビルはなく、結局、庁舎は10以上ものタコ足に。どんな用事の際にどこへ行けばいいのか区民は迷うばかり。やっとたどり着いてもエレベーターもない、などということになりかねません。

初期費用を少なくするためとはいえ、不便すぎませんか？



新たな借金 とんでもないムダづかい

一人前の自治体であれば庁舎は必要です。
それら、初期費用は2000億円。
庁舎をつくらなくても、640億円もの費用が。

くらしを壊す「大阪都」NO！ 市民を守る大阪市への転換を！！ 日本共産党 大阪市議員団



(西淀川区) 北山 良三



(城東区) 山中 智子



(住吉区) 井上ひろし



(淀川区) てらど月美



(西成区) 尾上やすお



(東淀川区) 岩崎けんた



(大正区) こはら孝志



(平野区) 小川 陽太